

令和6年度 高知県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を目指した授業づくりと学習評価の改善

目標

- 授業における、児童の英語による言語活動の割合が50%以上と回答した学校の割合（R5：90.9% ⇒ R6：93.0%）
- 「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定、公表、達成状況の把握の割合（R5：85.4%、42.2%、73.5% ⇒ R6：88.0%、47.0%、75%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況が改善。

設定（R4:80.1%⇒R5:85.4%）

把握（R4:71.0%⇒R5:73.5%）

②児童による、発話や発音などの録音・録画を実施した学校の割合が増加。

（R4:70.4%⇒R5:78.4%）

未だ改善が必要な点

①授業における、児童の英語による言語活動の割合が50%以上の学校の割合は、引き続き改善の余地がある。

（R4:86.9%⇒R5:90.9%）

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している学校の割合は、引き続き改善の余地がある。

公表（R4:31.2%⇒R5:42.2%）

2. 要因分析

①県主催の授業づくり講座において、拠点校4校による教材研究会や授業研究会を実施し、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を明記した単元計画や指導案をもとに、指導と評価の一体化について協働的に学び合うことで、学習到達目標の整備状況が改善したと考えられる。

②県主催の授業づくり講座及び小中高合同授業研究会において、ICT機器の効果的な活用場面を公開したり、小学校ICTスキルアップ研修会において、文部科学省作成の動画をもとに外国語授業におけるICT機器の活用場面を紹介したりしたことで、ICT機器を活用する学校が増加したと考えられる。

①言語活動の取組状況として、単元ゴールの言語活動を設定しているものの、各時間のステップアップの言語活動が設定されていない学校が訪問指導等で見られることから、「言語活動を通した」指導についての理解が十分ではないことが要因と考えられる。

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を作成しているが、教員と児童の間で共有されていない学校が多く、指導と評価の一体化の観点から、その活用意義や効果等について広く周知できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「CAN-DOリスト」及びICTの効果的な活用の推進

指導と評価の一体化や言語活動の充実を目指した授業づくりを推進するため、授業づくり講座や小中高合同授業研究会にて、「CAN-DOリスト」の活用及び1人1台端末や学習者用デジタル教科書の効果的な活用を視点とした教材研究会や授業研究会を行うことで、理解促進と授業改善を図る。

①学習指導要領が目指す授業づくりの推進

日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指すため、授業づくり講座及び小中高合同授業研究会、Discover Kochi Projectにて、9年間（12年間）の学びをつなぐ資質・能力の育成を目指した授業づくり及び言語活動を通した指導等について学び合う機会を確保することで、拠点校の取組を横展開し、言語活動の質の向上を図る。

②小・中・高連携の推進

小・中・高等学校における一貫性した英語によるコミュニケーション能力の育成を目指した授業づくりを推進するため、高知の魅力発信グローバル人材育成事業にて、目標・内容・指導方法等の学びの接続を図りながら、小・中・高連携「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標及び年間指導計画の作成及び活用を行うとともに、ホームページや訪問指導等でその取組や成果の発信・普及を行う。

◇一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

英語力を有する小学校教師を採用するため、教員採用候補者選考審査において、中学校教諭「英語」の普通免許状を有する者や、英検等の資格保有者を加点対象とし、英語力を有する受審者の受審拡大を図っている。

また、教員採用説明会等において、加点制度の説明や特別免許状等を活用した積極的な採用についての説明など、英語力を有する小学校教師の人材確保についての広報・周知を行う。

令和6年度 高知県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を目指した授業づくりと学習評価の改善

目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：39.1％⇒R6：43.0％）
- 授業における生徒の言語活動の割合が半分以上と回答する学校の割合（R5：76.3％⇒R6：79.0％）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語教育に関する小中連携が増加（R4:78.4%⇒R5:83.3%）
- ②「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標を公表している学校が増加（R4:58.8%⇒R5:60.4%）
- ③生徒がICTを活用し、発話や発音などの録音・録画した割合（R4:79.4%⇒R5:90.6%）

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校が減少（R4:89.7%⇒R5:85.4%）
- ②多くの学校がスピーキングとライティングの両方のパフォーマンステストを実施している（R5:95.4%）ものの、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合に課題が見られ（R5:39.1%）、生徒の英語力につながっていない。
- ③授業における生徒の英語による言語活動の割合は、全国平均と同程度に達している（R5:76.3%）ものの、R5全国学力・学習状況調査の結果から、文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くこと及び話すことに課題が見られる。

2. 要因分析

- ①県主催の事業において、小中教員を対象とした研究会及び授業研究プロセス動画を配信したことで、小中連携に取り組む学校が増加したと考えられる。
- ②③県主催の「授業づくり講座」において、目的・場面・状況の設定や単元目標を生徒と共有する実践やICTの効果的な活用場面を公開したことで、目標を共有したりICTを活用する学校が増加したと考えられる。

- ①「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標を作成している学校は多いものの、パフォーマンステストと関連付けた活用が不十分であることが要因と考えられる。
- ②指導した内容と評価の方法が一致していないことや、生徒の学習意欲向上につながるような評価となっていないことが考えられる。
- ③言語活動の内容や質が、生徒の英語力向上につながるものになっていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①小・中・高連携の推進
小・中・高等学校における一貫した英語によるコミュニケーション能力を育成するため、「話すこと（やり取り）」の領域による授業研究会を行う。例）午前・・・小 午後・・・中・高 公開授業
➢「小中高連携CAN-DORリスト」の作成・活用
- ①拠点校の取組を横展開し、取組の学び合いを推進
「CAN-DORリスト」形式による学習到達目標の活用及びパフォーマンステストの在り方、ALTの参画等について、拠点校と域内協力校が協働で研究を行う。
➢英検IBA（4技能調査）の実施
- ②③【身に付けた英語力を発揮する場の設定】
「Discover Kochi Project」の実施
英語で自分の考えや意見を発信することができる人材を育成するため、やり取り（質疑応答）を含むポスターセッションを行うことで、生徒の英語力の向上及び教員の指導力向上を図る。
➢ポスターセッションの様子を収録した動画を発信し、取組を普及
- 【学習指導要領が目指す授業づくりの推進】
1）日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指すため、授業づくり講座を拠点校4校で行う。拠点校は「教材研究会」と「授業研究会」を実施する。
➢1人1台端末を活用した授業づくり
➢課題解決型学習の推進（問いの設定）
2）英語科教員研修（学校悉皆）を行い、言語活動の充実及び正確性を高める指導の在り方等の講義・演習を実施するとともに、実践したパフォーマンステストについて報告する事後提出課題を課すことで、指導と評価の質の向上を図る。
➢パフォーマンステスト 話すこと（やり取り） 提出（全中学校）

令和6年度 高知県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を目指した授業づくりと学習評価の改善

目標

- CEFR A2 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 (R5 : 41.8% ⇒ R6 : 44.0%)
- CEFR B1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 (R5 : 11.2% ⇒ R6 : 14.0%)
- 授業における生徒の言語活動が、授業の半分以上と回答する学校の割合 (R5 : 46.3% ⇒ R6 : 60.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2レベル (英検準 2 級)相当以上を実際に取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加した。
(R4:40.6%⇒R5:41.8%)
- ②生徒がICTを活用し、発話や発音などの録音・録画した割合
(R4:69.7%⇒R5:90.0%)

未だ改善が必要な点

- ①多くの学校が、スピーキングとライティング両方のパフォーマンステストを実施している (R5:85.5%)が、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合に見られる、生徒の英語力につながっていない。
- ②授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合が依然少ない。
(R4:47.9%⇒R5:46.3%)

2. 要因分析

- ①高知県独自調査における各校からの記述より、生徒自身の学習に対する意欲の向上が見られる学校が出てきている。
また、生徒の英語力を適切に測ろうとする意識が高まっている。
- ②ICTを活用した授業づくりを推進したことで、実際に活用する学校の割合が増加した。

- ①指導した内容と評価の方法が一致していないことや、生徒の学習意欲向上につながるような評価となっていないことが考えられる。
- ②正確さの定着を重視するあまり、授業内でドリルにあてる割合が多くなっている可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②【学習指導要領が目指す授業づくりの推進】

- 小・中・高連携の推進
小・中・高等学校における一貫した英語によるコミュニケーション能力を育成するため、「話すこと [やり取り]」の領域による授業研究会を行う。
➢「小中高連携CAN-DOリスト」の作成・活用
➢「話すこと [やり取り]」の言語活動及びパフォーマンステストの事例をもとに、取組の展開を行う。
- 英語指導力向上事業及び各教科等研究協議会
教員のニーズに応じたテーマの協議会を開催する。また、各校の事例や取組を共有する場面を設定する。(R5のテーマ:「目標-指導-評価の一体化に向けて (特に主体的に学習に取り組む態度)」「単元構想」「言語活動の充実」)
また、授業実践シートを活用し、各校で設定しているCAN-DO リスト形式による学習到達目標、単元の指導、評価が一貫したものとなっているか、確認する。
- 各校への学校訪問の際の助言・指導
年間 3 回の訪問を通じて、各教員が作成する授業実践シートを基に授業への指導を行う。(ICTの効果的な活用含む)

①②【生徒達が身に付けた英語力を発揮する場の設定】

- 「Discover Kochi Project」「高知県海外派遣プログラム」「イングリッシュデイ」等の実施により、英語で自分の考えや意見を発信するだけでなく、日本 (高知県) と海外との違いやつながりを体感し、多様性や共通性を認識する。

高知県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.8	44		46		48		50	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	11.2	14		16		18		20	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	46.3	60		65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	85.5	87		90		95		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	88.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	88.9	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	85.5	87		88		89		90	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	41.6	60		65		70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		41	39.1	43		45		47		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	76.3	79		81		83		85	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	95.4	95		96		98		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	60.4	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	100	85.4	87		90		93		95	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	37.9	41		44		47		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	73.1	76		80		83		85	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	85.4	88		91		94		100	
		公表（％）	100	42.2	47		51		55		60	
		達成状況の把握（％）	100	73.5	75		77		79		80	